

白神山地巡視日誌

【巡視箇所】 水沢山ブナの森公園→粕毛川源流部（三蓋沢合流点付近）往復

【巡視日】 平成30年10月31日（水）

【報告者】 専門官 有本 実

10月末日ともなると、白神山地の紅葉は盛りを過ぎてすっかり晩秋の装いです。当センターとしては今年最後となる世界遺産核心地域の巡視に、ブナの落葉を踏みしめながら行ってきました。



クリタケ（食用）



ニカワチャワンタケ（食用）



ブナの実を食べたクマの糞

今回の巡視も『原生的ブナ林の長期変動調査』の監督を兼ねたもので、6月26日と同じルートを辿りました。核心地域内の調査区に向かう途中、クリタケやムキタケなど晩秋の茸類が傘を開き、林床には沢山のブナの実が落ちていました。ツキノワグマも冬眠前に、十分にブナの実を食べて脂肪を蓄えた事でしょう。

あのマザーツリーが折れた台風21号の影響でしょうか、調査区内のブナ林も数本、幹の途中から折れていました。調査区内の木々は1本1本全て個体識別用のナンバープレートをつけて、毎年その状態を記録しています。倒れてから根株だけになり、さらに腐朽が進んでナメコなどに分解されて消滅するまで、その木の一生を記録し続けるのです。大きなブナが1本倒れれば空が大きく開けて日差しが林床に降り注ぎ、新たな稚樹が芽生えて生長する…と、その個体に新たなプレートをつけてまた記録していきます。自然環境の変化を的確に察知する上で、こうした基礎データを収集する地道なモニタリングが重要なのです。



調査区にて。背後の折れたブナは『折損木』として記録します。



粕毛川の水面を吹き抜ける風は冷たく、源流域のブナの森は黄色から茶色へと色褪せはじめていました。誰かが入山した痕跡も見当たりません。

…調査区内で倒れたブナの木の下で、来春どんな草木が新たに芽生えるのでしょうか？早くも来シーズンのブナ林を頭に思い描きながら、大きく傾いた陽射しに急かされるように下山しました。

